尾瀬高校自然環境科の探究的な学びと地域貢献

～ハートフル生と地元生徒の化学反応～

群馬県立尾瀬高等学校 校長　田崎　潤

一、尾瀬高校の概要

本校は昭和三十七年、県立沼田高等学校武尊（ほたか）分校として設置され、平成八年には現在の校名である尾瀬高等学校に改称し、自然環境科を新設。現在は普通科・自然環境科各学年一クラスの小規模高校である。

二、自然環境科の学び

生徒の受け入れを全国から行っている自然環境科は周辺の豊かな自然環境を学びのフィールドとしており、「自然との共生」を図ることができる人づくりを目指す。尾瀬ヶ原や日光白根山、吹割の滝等の調査・研究だけでなく、個人探究でも高い評価を受けている。昨年度卒業生には「アリ」の研究を大学教授とともに行い、その内容は高校生レベルを超えていた。

この優れた成果は地域諸団体との連携によるところが極めて大きい。「自然との共生」を実践する方々からの学びは、生徒たちの探究心を掻き立てる。

環境省との連携協定では、ニホンジカ等の食害被害を防ぎ、尾瀬ヶ原の水芭蕉等の希少な植物を守るための保護柵設置を、通常入れない湿原に降り、汗を流している。地元環境保護団体シラネアオイを守る会との二十年以上にわたる保護・育成活動や群馬県が東京等で行う尾瀬ヶ原のPRイベントへの協力等、様々な学びの機会を得ている。

このような本校の教育実践が広く知られ、様々な校種からの連携依頼や議員や諸団体等の視察も非常に多い。昨年度は地元の小中学校だけでなく、首都圏からも三校が本校を訪れた。当日は生徒がすべて運営し、自然保護の重要性や研究成果の発表、学校案内等を行った。地方議会議員の視察には、のべ三十名ほどが来校。いずれの方々も本校の教育環境や教育実践に感嘆の声をあげていた。今年度は新たな連携が複数計画されており、現在その整理に追われている。

三、ハートフルホーム・システム

全国から自然環境科に入学する生徒たちを支えているのが「ハートフルホーム・システム」である。毎年十名前後のハートフル生が入学し、地域の家庭に三年間ホームステイしている。なかには、この地域のことを気に入り、一家で転居する方もいたり、自然保護活動を仕事とする卒業生もいたりと、移住者を増やすことに貢献している。

このハートフル生の学びに向かう姿勢は、地元から入学する生徒たちに大きな影響を与えている。地域活性化のためにボランティア組織を結成したり、より高いレベルの英語教育を求めて、群馬県が募集している「明石塾」にチャレンジしたりと、本校の教育活動を飛び越して生徒同士の化学反応が起きている。

このように、尾瀬高校は小規模高校のメリットを最大限に生かし、地元の子どもたちがハートフル生と共に前に進み、新たな自分と出会うことができる学校である。

シカ食害防御柵設置（環境省連携）